



## 2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月10日

上場会社名 鈴与シンワート株式会社  
 コード番号 9360  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所

東

URL <http://www.shinwart.co.jp/>

(氏名) 徳田康行

(氏名) 足洗俊之

(TEL) 03-5440-2800

配当支払開始予定日

—

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	3,499	4.1	△87	—	△83	—	△61	—
2022年3月期第1四半期	3,363	5.3	△96	—	△87	—	△57	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 △62百万円(—%) 2022年3月期第1四半期 △64百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	△20.81	—
2022年3月期第1四半期	△19.67	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	9,557	2,641	27.6
2022年3月期	9,964	2,792	28.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 2,641百万円 2022年3月期 2,792百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	0.00	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	15,500	7.2	450	22.6	500	23.4	330	112.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期1Q	3,000,000株	2022年3月期	3,000,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	58,052株	2022年3月期	58,052株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期1Q	2,941,948株	2022年3月期1Q	2,941,986株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数の減少傾向や経済活動の制限緩和により、持ち直しの動きが見られました。しかし、ウクライナ情勢の長期化や半導体・電子部品の供給不足、原材料・資源価格の上昇が続いたのに加え、急激な円安進行等に伴う物価上昇による景気減速への懸念が高まり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

一方、当社グループの主力である情報サービス事業のITサービス市場においては、企業の生産性向上・業務効率化を目的としたDX投資や社会的課題解決へ向けたシステムサービスへの投資需要は、引き続き高い状態にあります。

このような事業環境の中、当社グループの情報サービス事業においては、2021年度からの中期経営ビジョン「徹底した現場力の向上による収益構造の変革」を推進させ収益性の改善を図るとともに、当社の大きな財産となる新卒採用を中心とした人財の確保と各種教育研修プログラムによる人財力の強化、及び社内DX推進による経営基盤の整備に積極的に取り組んでおります。

また、物流事業においては、エッセンシャルワーカーによって成り立つ事業であることから、引き続き新型コロナウイルス感染防止対策に注力しつつ、物流作業の基本である「安全・品質」を具体的に実現・継続させていくことに集中するとともに事業に必要な投資は積極的に行い、収益力の強化を図っております。

このような状況のもと、当社グループの売上高は34億99百万円（前年同四半期比4.1%増）、売上総利益は収益性の改善と売上高の伸びにより5億72百万円（前年同四半期比11.8%増）を確保しました。新卒採用人員増、及び教育研修といった人財投資や宣伝広告費の増額により販売費及び一般管理費が増加し、営業損失は87百万円（前年同四半期は96百万円の損失）、経常損失は83百万円（前年同四半期は87百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は61百万円（前年同四半期は57百万円の損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### ①情報サービス事業

売上高は、新しいSaaSソリューションとして注力している安全運転支援クラウドサービス「あさレポ」が非常に順調に立ち上がっており、システム開発や人事・給与・就業・会計等の業務を中心としたパッケージソリューションサービスも堅調推移し、増収となりました。

以上の結果、売上高は26億95百万円（前年同四半期比4.4%増）となりました。

セグメント利益は、システム開発において生産性向上や高付加価値化による収益性改善が継続していること、及びクラウドサービスの増収効果により、大幅な増益となりました。

以上の結果、セグメント利益は1億96百万円（前年同四半期比17.3%増）となりました。

#### ②物流事業

売上高は、倉庫事業において、外食産業関連の貨物取扱量が堅調に推移したものの、一部倉庫の撤退等により減収となりました。港運事業においては、新規荷主の獲得及び貨物保管が好調であり、増収となりました。陸運事業においては、小麦粉価格の高騰を見込んだ駆け込み需要があり、増収となりました。

以上の結果、売上高は8億4百万円（前年同四半期比2.9%増）となりました。

セグメント利益は、倉庫事業において、料金改定による保管料の増加に加えて、作業効率化を図る等の業務改善効果もあり、増益となりました。港運事業においては、荷役機器による作業効率化やコスト管理を徹底したものの、原料糖本船荷役の取扱量減少により減益となりました。陸運事業においては、原油価格高騰の影響で燃料費等が上昇した影響があったものの、小麦粉価格の高騰を見込んだ駆け込み需要による輸送量の大幅な増加があり、増益となりました。

以上の結果、セグメント利益は1億43百万円（前年同四半期比7.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて4億6百万円減少し、33億13百万円となりました。これは主として、現金及び預金の増加42百万円と受取手形及び売掛金の減少7億10百万円、仕掛品の増加2億27百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて0百万円減少し、62億44百万円となりました。これは主として、建物及び構築物の減少44百万円と投資有価証券の減少10百万円、繰延税金資産の増加86百万円によるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて4億7百万円減少し、95億57百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1億7百万円減少し、30億52百万円となりました。これは主として、短期借入金の減少3億円、1年内返済予定の長期借入金の減少78百万円、賞与引当金の増加2億68百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて1億49百万円減少し、38億63百万円となりました。これは主として、長期借入金の減少1億35百万円によるものであります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1億50百万円減少し、26億41百万円となりました。これは主として、剰余金の配当と親会社株主に帰属する四半期純損失による利益剰余金の減少1億49百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年5月13日に公表いたしました連結業績予想に変更はございません。

業績予想につきましては、サマリー情報の「3.2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,159	1,201
受取手形及び売掛金	2,212	1,502
仕掛品	154	381
その他	193	227
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	3,719	3,313
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	819	774
工具、器具及び備品（純額）	283	276
土地	2,472	2,472
その他（純額）	660	635
有形固定資産合計	4,236	4,159
無形固定資産		
ソフトウェア	305	317
のれん	31	29
その他	105	100
無形固定資産合計	442	448
投資その他の資産		
投資有価証券	493	483
繰延税金資産	806	893
その他	285	278
貸倒引当金	△19	△19
投資その他の資産合計	1,566	1,635
固定資産合計	6,245	6,244
資産合計	9,964	9,557

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	732	721
短期借入金	300	—
1年内返済予定の長期借入金	663	585
リース債務	164	166
未払法人税等	100	82
賞与引当金	501	770
受注損失引当金	6	15
その他	691	711
流動負債合計	3,159	3,052
固定負債		
長期借入金	1,323	1,188
リース債務	393	376
再評価に係る繰延税金負債	171	171
役員退職慰労引当金	27	20
退職給付に係る負債	1,991	2,009
その他	105	97
固定負債合計	4,012	3,863
負債合計	7,172	6,916
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	802	802
資本剰余金	162	162
利益剰余金	1,586	1,437
自己株式	△37	△37
株主資本合計	2,513	2,364
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23	23
土地再評価差額金	248	248
退職給付に係る調整累計額	6	5
その他の包括利益累計額合計	278	277
純資産合計	2,792	2,641
負債純資産合計	9,964	9,557

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	3,363	3,499
売上原価	2,850	2,926
売上総利益	512	572
販売費及び一般管理費	609	660
営業損失(△)	△96	△87
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	7	5
経営指導料	4	4
受取賃貸料	4	4
その他	3	3
営業外収益合計	20	18
営業外費用		
支払利息	8	8
持分法による投資損失	0	4
その他	2	1
営業外費用合計	10	14
経常損失(△)	△87	△83
税金等調整前四半期純損失(△)	△87	△83
法人税等	△29	△22
四半期純損失(△)	△57	△61
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△57	△61



四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純損失(△)	△57	△61
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6	△0
退職給付に係る調整額	0	△0
その他の包括利益合計	△6	△0
四半期包括利益	△64	△62
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△64	△62

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	情報サービス 事業	物流事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,581	782	3,363	—	3,363
セグメント間の内部売上高又は振替高	2	1	3	△3	—
計	2,583	783	3,367	△3	3,363
セグメント利益又は損失(△)	167	133	300	△397	△96

(注)1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△397百万円は、セグメント間取引消去4百万円と各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用△401百万円が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	情報サービス 事業	物流事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	2,695	804	3,499	—	3,499
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	2,695	804	3,499	—	3,499
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	0	1	△1	—
計	2,695	805	3,501	△1	3,499
セグメント利益又は損失(△)	196	143	339	△426	△87

(注)1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△426百万円は、セグメント間取引消去5百万円と各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用△430百万円が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。